

いじめ防止をねらいとした指導案例

小1 役割演技を通して悪いと分かっているやっつけてしまいたくなる弱さに向き合い、正しいことを行うことの気持ちよさを感じる授業

資料名 「ぼんたとかんた」
『わたしたちの道徳』小一・二年

危険な裏山に行こうとかんたに誘われ、ぼんたは
どうしようか迷ってしまう。

行かないと決めたかんたの気持ちから、正しいことをしたときの
気持ちよさに気付く。

小2 役割演技から、仲間はずれにする側、される側両方の気持ちを考える授業

資料名 「およげないりすさん」
『わたしたちの道徳』小一・二年

島で遊ぶ約束をしたあひるとかめと白鳥は、泳
げないことを理由にりすの頼みを断ってしまう。

それぞれの立場で役割演技を行い、双方の気持ちを考えるこ
とで、友達と助け合って仲良くすることの大切さを理解する。

小3 必死に生きる生き物の行動から、いのちについて考える授業

資料名 「ヒキガエルとロバ」
『わたしたちの道徳』小三・四年

ヒキガエルに石を投げていたアドルフたちはそ
れを守るロバを見て立ちすくんでしまう。

苦しい中でもヒキガエルの命を必死で守ろうとするロバの行動
から、命について考えを深める。

小4 問題解決的な学習を通して、本当の友達について考える授業

資料名 「同じ仲間だから」
『わたしたちの道徳』小三・四年

運動が苦手な光夫を競技からはずそうとするひ
ろしの発言を聞いてとも子は迷ってしまう。

自分の思いだけを優先させるのではなく、友達の立場に立って
考えることの大切さから、友達の大切さを理解する。

小5 資料の言葉に自我関与し、公平・公正について考える授業

資料名 「愛の日記」
『わたしたちの道徳』小五・六年

父のホームでの思い出話から、澤田先生の生
き方と自分を重ね合わせ揺れる私。

公平・公正にすることの難しさや大切さについて、自分の経験
と重ね合わせながら考え、意欲につなげる。

小6 誰もが持っている人間の弱さに自我関与し、勇気を持って行動を起こすことの大切さについて考える授業

資料名 「あなたも同じ」
『夢にむかって』埼玉県教委

「私」はいじめられている明奈に声を掛けていた
が、自分を守るため明奈から離れてしまう。

思いがけない言葉に揺れ動く私の気持ちから、誰もが弱さを持
ちつつ不正を許さない勇気が大切であることを自覚する。

中1 多様な視点から本当の友達について捉え、考えを深める授業

資料名 「違うんだよ、健司」
『中学校道徳読み物資料』

「僕」は耕平に対して適当に合わせていることを
健司に見透かされ、友達について考える。

三人の視点から友情についてグループで話し合い、多様な感
じ方・考え方に触れ、友情の尊さを理解する。

中2 人権問題からいじめを自分自身の問題として捉え、いじめをなくすためにできることを考える授業

資料名 「世界人権宣言」
『私たちの道徳』

差別や偏見の理由を考え、人間の弱さに気付く
とともに、いじめにも共通していることを捉える。

ガンディーの行動から、いじめのない社会にするために自分に
できることを考え、実行しようとする意欲を持つ。

中3 いじめる立場から、いじめの愚かさを知り、いじめについて考える授業

資料名 「卒業文集最後の二行」
『私たちの道徳』

T子さんを徹底的にいじめたが、卒業文集最後
の二行を読んで泣き続けた「私」だった。

悪いと思っけていてもやめられない弱さや多勢に負けてしまう弱
さを通していじめの愚かさを知り、公正・公平の大切さを理解す
る。